

平成 27 年度庄原市「ことばの教育」研修会

【平成 27 年 6 月 19 日（金）】 庄原市総合体育館 2 階会議室

広島県の「ことばの教育」の方針を踏まえた授業改善等を行うため、各教科の枠をこえた言語活動の充実を図った授業改善等の工夫について研修し、各校の「ことばの教育」の充実を図る。

【講話】「本市のことばの教育の現状について」

庄原市教育委員会 教育指導課指導係 指導主事 松田 千秋

庄原市における「ことばの教育」に係る児童生徒の実態や教育施策を知り、授業改善に向けての取組について確認した。

【サテライト研修講座】「各教科等における言語活動の充実」

広島県立教育センター 企画部 指導主事 永井 博美

広島県の「ことばの教育」の方針を踏まえて、各教科の枠をこえた授業改善の工夫について理解を深めるとともに、指導案の交流をして、各校における言語活動の充実を図った授業づくりについて研修を深めた。



（参加者の振り返りより）

- ◆ 本市の児童・生徒の実態が数値で客観的に理解できた。
- ◆ 「言語活動の充実の視点」は、授業研修に活用できる。
- ◆ 技術の習得と能力の開発を意識する。
- ◆ 全国学力・学習状況調査、広島県「基礎・基本」定着状況調査の分析と指導改善の検討の場で研修を行う。
- ◆ 校内の研究に直結する内容だったので、すぐにでも研修の内容に組み込んでいく。
- ◆ 指導案を見る視点が分かった。ねらいを達成させるために有効な言語活動であったか、校内授業研の際に研修していく。
- ◆ 校内研修で、言語活動の充実に向けて、それぞれが工夫している点やアイデアを交流して研修する。
- ◆ 校種、学年、教科等が異なる中で、共通の言語活動の在り方について論議を深めることができた。
- ◆ 異校種、他地域の先生と交流することにより、他校の実践を知ることができ、新鮮であった。
- ◆ 言語活動の具体（スキル）を小学校の指導案から学ぶことができた。
- ◆ もう少し早い時期の研修であるとよい。